

平成 28 年度 特別区 I 類本試験（教養試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	文章理解 (現代文)	要旨把握	3	A	【文章理解】 現代文の出題数、構成におおむね変化はなく、要旨把握3問、文章整序1問、空欄補充1問の出題であった。特別区の現代文(要旨把握)は、例年、他の試験の現代文(内容把握)に比べて、紛らわしい選択肢が多いが、本年はNo.1がそうした間違えやすい問題であったといえよう。文章整序問題は、「その」「ところが」「それは」といった語に着目すると、確実なつながりが見出せるため、容易な問題であった。空欄補充の問題は、文章は読みやすいとはいえないものであったが、「つまり確実なものは与えられたものではなくてBされるもの」から、空欄Bが「形成」で確定できるため、容易に正答が導けたものを思われる。
2		要旨把握	5	A	
3		要旨把握	3	A	
4		文章整序	4	A	
5		空欄補充	5	B	
6	文章理解 (英文)	内容把握	3	B	【英文理解】 昨年度は内容把握1問、空欄補充1問、文章整序1問であったが、本年度は内容把握2問、空欄補充1問、慣用句1問の出題であった。本年度は特別区の出題構成が知能重視となることあらかじめ公表されていたが、文章理解で問題数が増えたのは英文の1問である。難問前だった例年の傾向が変わり、本年度は難易度がかなり下がった。No.7は日本人著者による著作の英訳、No.8は『星の王子さま』と問題文自体が易しくなったことに加えて、細部を問う傾向にあった肢が、照らし合わせによって十分に解けるものになった。肢の日本語にやや癖があるので惑わされないようにしたい。
7		内容把握	5	A	
8		空欄補充	1	C	
9		慣用句(ことわざ)	1	C	
10	判断推理/ 数的推理	試合	5	A	【判断推理/数的推理】 判断推理: 試合、暗号、対応関係、真偽、位置関係から5題が出題された。本年度から問題数が変更になったため昨年よりも1題増加した。No.10のトーナメントは条件からトーナメントのおおよそが決まるので、考えやすかったであろう。No.11の暗号は比較的わかりやすい記号であった。No.12の対応関係は複数人が選択した科目を考慮していれば、解きやすい問題である。No.13の真偽は『過去問 新クイックマスター』(以下「QM」)の応用レベルに状況が違う設定が同じ問題が載っているもの、条件が多いことから難しかったであろう。No.15の位置関係の方角の問題は等距離にある施設が同一円周上にあることに着目して円を重ねるように考えていくことになる。 数的推理: 場合の数、図形の計量、約数・倍数、速さ、ニュートン算から6題が出題された。本年度から問題数が変更になったために昨年よりも1題増加した。No.14の経路の場合の数を求める問題は典型問題であるから、正解したい。No.16の図形の計量は基礎的な問題であるが、正三角形の内接円の中心は重心と同一であることを利用して効率よく解きたい。No.17の約数・倍数はQMに同様の問題があることから、解きやすいと思われたが正答率はそれほど高くなかった。No.18の速さの問題は高速道路の距離を三平方の定理や直角三角形の典型的な比から求めることになるが、問題文の意味がわからず2つの経路で時間を比較するだけの簡単な問題であり、正解しておきたい。No.19のニュートン算は方程式を作り慣れている受験者には難しくなかったであろう。No.20の約数・倍数は最大公約数と最小公倍数から、nに必ず必要な因数を見つけることができれば難しくはない。
11		暗号	2	A	
12		対応関係	4	A	
13		真偽	1	B	
14		場合の数	2	A	
15		位置関係	1	B	
16		図形の計量	4	A	
17		約数・倍数	2	B	
18		速さ	1	B	
19		ニュートン算	2	B	
20		約数・倍数	3	C	
21	資料解釈	表(実数)	4	A	実数の表、増加率の表、実数のグラフ、2つの円グラフの4題が出題された。特別区の典型的な出題形式であり、選択肢の間違い方も同様であるため、解きやすかったであろう。 【空間把握】 展開図、平面図形の分割・構成、立体の切断、軌跡から4題が出題された。No.25のある立体の展開図は完成形がイメージしづらいことから難しかったであろう。No.26の折り目を見つける問題は折り目の左右で対称となっている折り目は、後に付けられた折り目であることに注意していく。No.27の切断面の面積を求める問題は切断面がどのような図形かをイメージできないと難しかったであろう。この問題では切断面はひし形となるので、対角線を求めれば面積を求めることができる。No.28の軌跡の長さを求める問題はQMの応用レベルに似た問題があるので演習をしていた受験者は考えやすかったかもしれない。回転の中心とPとの距離、回転する角度を順に考えていくことになる。
22		表(増減率)	3	B	
23		グラフ(実数)	4	A	
24		2グラフ(構成比)	3	B	
25	空間把握	展開図	1	C	【社会科学】 法学からは法の分類、新しい人権の2問、政治から人権・民族問題、経済から社会保障制度、例年どおり4問である。法の分類は初歩的な知識を問うものであるため、是非正解しておきたい。また、新しい人権は幅広く取り上げているが、知る権利や環境権などオーソドックスなものばかりなのである。人権・民族問題は、政治ばかりでなく、時事や地理、歴史等の知識でも正否を判別できる選択肢もあるが、正解率は低かった。社会保障制度は、海外の社会保障制度を問う肢もあり、なじみが薄いかもかもしれないが、日本の社会保障制度の知識で正解肢を導ける問題である。いずれも基本レベルから標準レベルの問題であるので、4問中3問は正解しておきたい。
26		平面図形の分割・構成	1	C	
27		立体の切断	4	C	
28	社会科学	軌跡	2	C	【人文科学】 思想: 江戸時代からの出題である。典型的な問題であり、かつ、正解肢が石田梅岩であることから、必ず正答すべき問題であった。ただ、思想まで手が回らなかった人が多かったのか、思ったよりも正答率が低い。 日本史: 大正時代から昭和初期の恐慌についての出題であり、従来にはない切り取り方の問題であった。過去にはあまり出題例がないことから、日本史が相当に得意な人のみが選択したと思われる。 世界史: 冷戦に関する問題である。冷戦の始まりに関する出題は数多くあるが、戦後直後から1950年代までの歴史を切り取った問題はほとんどないため、日本史と同様、過去に出題例がない肢が多く、世界史が相当に得意な人が選択したと思われる。 地理: 日本史と世界史が難しかったのに対し、地理は思想と同様、基本的な事項を扱う典型問題であった。本問は確実に正答して得点を稼がないといけない問題である。
29		法の分類	4	A	
30		新しい人権	4	B	
31		人種・民族問題	1	C	
32	人文科学	社会保障制度	5	A	【社会事情】 COP21、TPP、AIIIB、一億総活躍社会の4問である。COP21は、昨年採択したばかりのパリ協定がメインで比較的容易な問題といえる。TPPは正解率が低かったことから、詳細なデータが問題文に掲載されて戸惑ったかもしれないが、日ごろから時事の準備をしていれば正解肢にたどり着ける問題である。AIIIBは、いずれの肢も基本的なことを問う平易な問題で、正解率も高かった。一億総活躍社会は、国の重要政策でもあるので、必ず正解しておきたい。
33		江戸時代の思想家	4	B	
34		20世紀の政治	3	C	
35		冷戦	2	C	
36	社会事情	世界の気候	4	A	【自然科学】 物理から落体の運動とコイルについて、化学からアルカリ土類金属と電池について、生物から血液の凝固と植生について、地学からケプラーの法則と火山岩について、計8題が出題された。No.41の落体の運動は自由落下と鉛直投げ降ろしの変位の公式を覚えていけば解くことができる。No.42はコイルに蓄えられているエネルギーを求める問題であったが、他の職種ではあまり出題される範囲ではないため、難しく正答率も悪かった。No.43はどれがアルカリ土類金属なのかを求める問題であるが、正答率が悪かった。2価のイオンとなるもので含まれないものを復習しておきたい。No.44は電池に関する問題であるが、ダニエル電池やイオン化傾向の基本的な知識で解くことができる。No.45は血液の凝固に関する問題であるが、わかりやすい選択肢であるため、正解しておきたい。No.46は植生に関する問題であるが、選択肢はやさしいが、あまり学習していない範囲である。No.47はケプラーの法則に関する問題であるが、第3法則を思い出せないといえれば解くことができる。No.48は火山岩についての問題であるが、石基と斑晶がわかれば解くことができる。
37		COP21	3	A	
38		TPP協定交渉	2	C	
39	アジアインフラ投資銀行	2	A		
40	自然科学	一億総活躍社会	5	B	【自然科学】 物理から落体の運動とコイルについて、化学からアルカリ土類金属と電池について、生物から血液の凝固と植生について、地学からケプラーの法則と火山岩について、計8題が出題された。No.41の落体の運動は自由落下と鉛直投げ降ろしの変位の公式を覚えていけば解くことができる。No.42はコイルに蓄えられているエネルギーを求める問題であったが、他の職種ではあまり出題される範囲ではないため、難しく正答率も悪かった。No.43はどれがアルカリ土類金属なのかを求める問題であるが、正答率が悪かった。2価のイオンとなるもので含まれないものを復習しておきたい。No.44は電池に関する問題であるが、ダニエル電池やイオン化傾向の基本的な知識で解くことができる。No.45は血液の凝固に関する問題であるが、わかりやすい選択肢であるため、正解しておきたい。No.46は植生に関する問題であるが、選択肢はやさしいが、あまり学習していない範囲である。No.47はケプラーの法則に関する問題であるが、第3法則を思い出せないといえれば解くことができる。No.48は火山岩についての問題であるが、石基と斑晶がわかれば解くことができる。
41		落体の運動	2	B	
42	自然科学	コイル	2	C	【自然科学】 物理から落体の運動とコイルについて、化学からアルカリ土類金属と電池について、生物から血液の凝固と植生について、地学からケプラーの法則と火山岩について、計8題が出題された。No.41の落体の運動は自由落下と鉛直投げ降ろしの変位の公式を覚えていけば解くことができる。No.42はコイルに蓄えられているエネルギーを求める問題であったが、他の職種ではあまり出題される範囲ではないため、難しく正答率も悪かった。No.43はどれがアルカリ土類金属なのかを求める問題であるが、正答率が悪かった。2価のイオンとなるもので含まれないものを復習しておきたい。No.44は電池に関する問題であるが、ダニエル電池やイオン化傾向の基本的な知識で解くことができる。No.45は血液の凝固に関する問題であるが、わかりやすい選択肢であるため、正解しておきたい。No.46は植生に関する問題であるが、選択肢はやさしいが、あまり学習していない範囲である。No.47はケプラーの法則に関する問題であるが、第3法則を思い出せないといえれば解くことができる。No.48は火山岩についての問題であるが、石基と斑晶がわかれば解くことができる。
43		アルカリ土類金属	4	C	
44		電池	1	B	
45		血液	1	A	
46		植生	5	B	
47		ケプラーの法則	5	C	
48		火山岩	2	B	

※ 正答率(A: 60%以上、B: 40%以上60%未満、C: 40%未満)は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ(6/9 11:30時点)に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ(<http://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>)にてご案内しています。

